

議会のうごき
ACTION

12月

- 20日(月) ◆第34回戦国国衆祭り第2回実行委員会
27日(月) ◆郡議長会(玉名地域振興局)
〃 ◆消防夜警合同巡回

1月

- 4日(火) ◆和水町成人式
7日(金) ◆道路整備推進委員会(玉名地域振興局)
9日(日) ◆消防出初式
13日(木) ◆新年祝賀会(玉名青年会議所主催)
14日(金) ◆広報調査特別委員会
18日(火) ◆県道玉名立花線道路開発期成会要望活動(福岡県庁・熊本県庁)
24日(月) ◆地域福祉トップセミナー(熊本県庁)
〃 ◆有明広域行政事務組合消防本部庁舎等建設候補地検討委員会(消防本部)
25日(火) ◆郡議長会(玉名地域振興局)
26日(水) ◆県道玉名立花線道路開発期成会要望式(玉名市)
28日(金) ◆全員協議会

2月

- 1日(火) ◆第61回定期総会(自治会館)
3日(木) ◆せきすい斎苑連絡協議会(せきすい斎苑)
〃 ◆公開授業研究会(南小学校)
5日(土) ◆荒玉地域みんなでいきいきフォーラム(荒尾総合文化センター)
12日(土) ◆九州新幹線試乗会
13日(日) ◆戦国肥後国まつり
14日(月) ◆全員協議会
15日(火) ◆町村新議員研修会(自治会館)
21日(月) ◆全員協議会
27日(日) ◆町生涯学習推進大会

3月

- 1日(火) ◆卒業証書授与式(南関高校体育館)
2日(水) ◆議会運営委員会
9日(水) ◆3月和水町議会定例会(上程・提案理由の説明、一部審議採決)
◆全員協議会
10日(木) ◆3月和水町議会定例会(一般質問)
◆厚生常任委員会
◆建設経済常任委員会
11日(金) ◆3月和水町議会定例会(一般質問)
◆全員協議会
14日(月) ◆各常任委員会(平成23年度当初予算審査)
15日(火) ◆各常任委員会(平成23年度当初予算審査)
18日(金) ◆3月和水町議会定例会(審議・採決)

委員	委員	委員	委員	副委員長	委員長	小山	暁
員	員	員	員			豊後	力
蒲池恭一	中村一博	松村慶次	荒木拓馬				

編集委員

今、どのような問題が起こり、どういう事柄に取り組み、どのような方向に進んでいるのか、実感したく3月11日、12日の定例議会を傍聴した。ドアを開けると静まり返った議場にビーンと緊張感が走り重々しさを感じ取ることができた。

一般質問の内容としては、町職員の不祥事、産廃最終処分場、学校教育、農業関係等々についてであった。それぞれの質問者、執行部の答弁等有意義ではあったが、ただ、議会を傍聴していて一番気になつたことは全協(全員協議会)で説明した

自体形式的な場で有りパフォーマンス場にしかならないのではないか。議事録も残り責任のある議会での発言、答弁にこそ絶対的な信用性が生かされるものである。

合併して5年が過ぎ和水町としても、そろそろ一つにまとまる頃だと思うのだが、まだ、他人事のように思われている事柄もたくさんある。

坂本浩一 氏
(和水町内田)

とか、これから全協でという全協という答弁が多く聞かれ60分という時間の短さに説明時間を費やしたくない配慮も理解できるが、傍聴者にとつては少し疑問点もある。おおげさに言うならば、全協で大方の道筋が描かれ決定するのであれば、議会も幅広く意見を聞かれ将来のマンス場にしかならないのではないか。議事録も残り責任のある議会での発言、答弁にこそ絶対的な信用性が生かされるものである。

議会、執行部におかれましても、幅広く意見を聞かれ将来のビジョンをしっかりと描き、時代に取り残されない時代を先取りして進んでいけるような町づくりに取り組んで頂きますようご尽力お願い申し上げます。

私見混じりになつたことお詫び致しまして、私の傍聴記とさせて頂きます。

○教育委員会委員 戸上 博
(昭和21年2月24日生)

3月定例議会が、9日より18日までの会期で始まった3日目の午後、衝撃的ニュースが入ってきました。

あの「東日本大震災」の報道であります。

議会では議場において、議員・執行部全員で黙祷を捧げ犠牲になられた方々のご冥福をお祈り致しました。

また、全員協議会におきまして、議員全員で支援金を送る事

を申し合わせました。

天災は、いつ何時起くるか解

らない怖さを改めて思い知り、

「危機管理」の重要性を再認識

したところです。

今後とも和水町議会として、会計予算等を審議し、可決しました。

また、6名が一般質間に立ち活発な議論を展開しました。

日々暖かさをまし、和水町の特産でもありますタケノコも頬をだし初め、春らしくなつてきました。

「希望あふれ、人と地域が輝くまち」づくりに向けて、全議員新たな気持ちで取り組んでまいりますので、よろしくお願い申しあげ、編集後記とします。

○編集後記
○筆



和水町議会としましても、自然災害対策に今後さらに議論を深めていかなければならないと思つております。